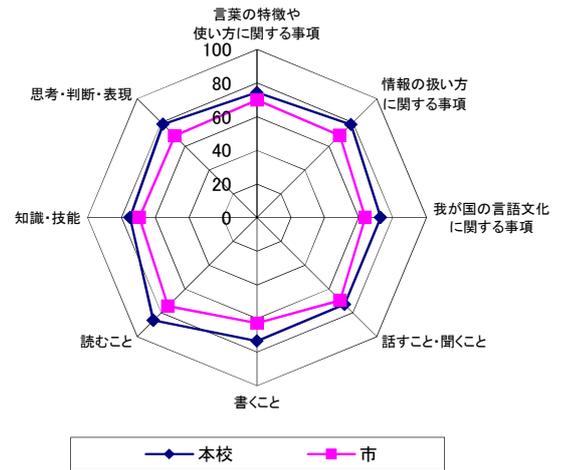


宇都宮市立錦小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	78.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	73.0	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	73.0	69.5	71.5
	書くこと	73.4	62.8	67.1
	読むこと	86.5	74.4	73.7
観点別	知識・技能	74.9	69.4	71.9
	思考・判断・表現	78.6	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

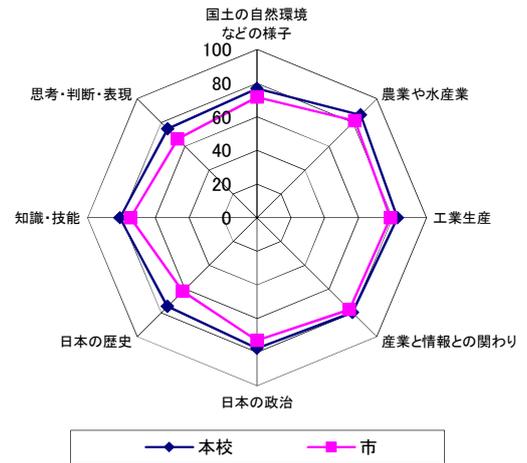
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は74.4%で、市の平均を4.5ポイント上回った。 ○漢字の読みについては、正答率が9割を超えており、概ね身に付いているといえる。 ●第五学年に配当されている漢字を書く問題では、市の平均正答率を下回る漢字があった。	・漢字ドリルやプリントなどを活用しながら、反復練習を行い、定着を図っていく。前学年までの既習漢字も自主学習などで復習できるよう、指導を行っていく。 ・文脈に沿った漢字を適切に使うことができるよう、教科書に出てくる言葉の意味調べを辞書やインターネットを活用しながら行うなど、語句の意味を理解して漢字を使えるようにしていきたい。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は78.4%で、市の平均より9.2ポイント高かった。 ○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」については、100%の正答率であった。 ○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている」について、正答率が市の平均を2.2ポイント上回ったが、56.8%と低い正答率であった。	・写真やグラフ、表などの情報を基に、自分の考えを述べながら文章を書くことは、国語の単元でも学習しているが、他の教科でも情報を活用しながら自分の考えが述べられるよう、教科横断的に学習に取り組み、国語の学習を実生活に生かせるようにしていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は73%で、市の平均より9.2ポイント高かった。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」について、正答率は73%であり、市の平均を9.2ポイント上回った。	・漢字の成り立ちや意味などを自主的に調べることができるよう、自主学習の取り組む内容として取り上げるなど、漢字を書いたり読んだりするだけでなく、興味をもって学習に取り組めるようにしていきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は73%で、市の平均より3.5ポイント高かった。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている」について、正答率が市の平均を4.2ポイント上回った。	・国語の授業だけでなく、どの教科でも相手の話をよく聞き取り、内容をきちんと捉えられるようにしていく。教室に掲示してある「話し方や聞き方」を確認し、話を聞くときの基本的な態度を繰り返し指導をしていく。 ・学級活動などの時間も活用し、話題に対して互いの立場を明確にしながら計画的に話し合えるように支援していく。
書くこと	平均正答率は73.4%で、市の平均より10.6ポイント高かった。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を簡単に書いている」について、正答率が78.4%と市の平均を13.2ポイント上回った。 ●「予想される反論とそれに対する意見を書いている」について、市の平均を20.8ポイント上回ったが、56.8%と低い正答率であった。	・日常的に、自分の考えを文章に表現する機会を多く設け、自分の意図が読み手に伝わるよう意識して文章を書けるようにしていく。 ・国語や総合的な学習の時間などの授業において、文章を書く前に構成メモを作成し、自分の書きたいことを整理するなど、筋道を立てて表現できるように指導を行っていく。
読むこと	平均正答率は86.5%で、市の平均より12.1ポイント高かった。 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題では、正答率が89.2%と市の平均を10.5ポイント上回った。	・物語においては、登場人物の心情の変化や場面の移り変わりなどを適切に捉えられるよう、気持ちや時を表す言葉などに着目できるよう指導を行う。 ・朝の学習の時間などを活用し、普段から本に親しむことができるよう、今後も引き続き、本校の特色である読書活動に力を入れていく。

宇都宮市立錦小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	76.8	71.6	67.5
	農業や水産業	86.5	81.5	82.1
	工業生産	82.9	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	79.7	77.2	68.2
	日本の政治	77.7	73.1	77.9
観点別	日本の歴史	74.7	62.0	65.8
	知識・技能	80.9	74.6	74.5
	思考・判断・表現	74.6	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

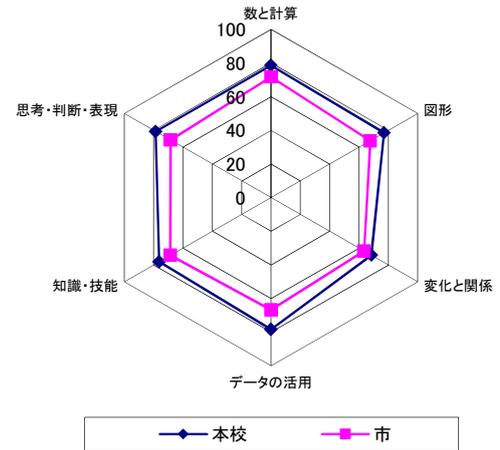
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は76.8%で、市の平均より5.2ポイント高かった。 ○「日本周辺の海洋名について理解している」については、91.9%と高い定着率であった。 ●「日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っている」については、市の平均よりも8.8ポイント高いが、45.9%という低い定着率であった。	・地図帳等を活用し、日本や世界の国々の位置を理解させたり、日本の国土の特徴を復習したりしていく。
農業や水産業	平均正答率は86.5%で、市の平均より5ポイント高かった。 ○「地産地消の取り組みを理解している」については、97.3%と高い定着率となった。 ●「カントリーエレベーターについて理解している」については、市の平均より1.4ポイント下回る結果となった。	・農業や水産業について、学習したことが生活と結びつくような支援を心掛けていく。その手立てとして、視聴覚教材を活用したり、食料生産等の課題などの話を日常の学校生活の中で取り入れたりしていく。また、授業において、生産量とその生産地などを地図で確認する習慣をつけるようにする。
工業生産	平均正答率は82.9%で、市の平均より4.2ポイント高かった。 ○「自動車工場の作業工程について理解している」については、100%の定着率であった。 ●「キャリアカーと船に着目して、自動車の出荷の工夫を捉え、表現している」については、市の平均よりも5.4ポイント下回り、56.8%と低い定着率であった。	・工業生産やその資料の読み取りについて改めて授業等で取り扱い、関心を継続させていけるようにしていく。 ・工業生産について、交通網の広がりや外国との関わりなどにも着目させ、貿易や運輸の様子を捉えさせる。
産業と情報との関わり	平均正答率は79.7%で、市の平均より2.5ポイント高かった。 ○「メディアの特徴を理解している」については、91.9%で市の平均とほぼ同等であった。 ●「資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断している」については、67.6%で市の平均を4.8%上回ったが、十分定着しているとは言えない。	・情報社会の中で、どんなことが大切であるのかについて考える機会を、今後も多く設けていく。また、情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、視聴覚教材や資料集などの資料を活用しながら復習していく。
日本の政治	平均正答率は77.7%で、市の平均より4.6ポイント高かった。 ○「基本的人権の尊重について、生活の中の具体的な事例をもとに判断している」については、97.3%で、市の平均より12.5ポイント高かった。 ●「税金について理解している」は、73%で、市の平均より7.8ポイント低かった。	・日本の政治について、学習したことを基に国民としての政治の関わり方について考える機会を設けていく。 ・政治が国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを改めて確認すると共に、税金の働きについて、租税教室などで学んだことを想起させながら復習していく。
日本の歴史	平均正答率は74.7%で、市の平均より12.7ポイント高かった。 ○「室町時代の文化について理解している」については、73%で、市の平均より14.9ポイント高かった。 ●「大和朝廷について理解している」については、59.5%で市の平均より5.2ポイント低かった。	・縄文時代から平安時代までの設問について、平均正答率が低い傾向にあったため、AIDリル等を活用しながら、改めて復習していく。また、歴史上の出来事の背景にある人物やその時代を生きた人々の思いを考える機会や、昔の出来事などが今に伝わっているということを感じ取る機会を設けていく。

宇都宮市立錦小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.6	71.8	76.2
	図形	77.0	67.7	67.8
	変化と関係	68.5	63.4	62.7
	データの活用	78.4	66.7	61.5
観点別	知識・技能	76.2	68.6	70.7
	思考・判断・表現	78.6	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

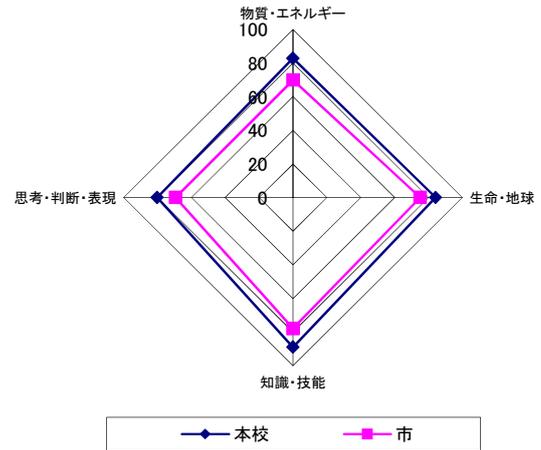
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は78.6%で市の平均を7%近く上回っている。</p> <p>○少数の計算・分数の計算において、全ての問題で市、全国共に上回っている。特に、真分数+真分数の問題で、分母どうしをかける通分をする問題では、市の平均より8.5ポイント高い。</p> <p>●少数倍の文章問題では、市の平均とほぼ同等の正答率であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の反復練習を継続して行い、定着を図ると共に、個別指導を通して、一人一人のさらなる習熟を図る。 具体的な場面と式を結びつける学習を可能な限り取り入れ、活用する力を養う。
図形	<p>平均正答率は77%で、市の平均を9.3ポイント上回っている。</p> <p>○ほとんどの問題で市の平均を上回っている。特に、円と四角形を組み合わせた図形の面積の求め方から、どの図形の面積を求めたかを選ぶ問題では、市の平均を29ポイント上回っている。</p> <p>●線対称な図形について、対象の軸が何本あるか求める問題は、市の平均より12.7ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 示された図形の面積を求めたり、求め方について筋道を立てて考え説明する力は身につけて来ている。更なる定着を図りたい。 具体物を操作しながら図形を組み立てたり、分解したりしながら、図形についての見方や、感覚を豊かにする活動を充実させる。
変化と関係	<p>平均正答率は68.5%で、市の平均を5.1ポイント上回っている。</p> <p>○図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを求める問題では、市の平均より3.8ポイント高く、基準量と比較量から割合を求める問題では、市の平均より12ポイント近く高い。</p> <p>●時速を秒速や分速に直す問題は、市の平均をわずかに下回る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりの大きさ・速さの問題に苦手意識を持っている児童が見られる。比較量と基準量の求め方や違いについて、基本問題に反復して取り組みませ、異なる割合を比べる時に、倍の考えや、比例の考えを前提に理解の定着を図る。
データの活用	<p>平均正答率は78.4%で、市の平均を11.7ポイント上回っている。</p> <p>○値に0がある連続量の平均を求める問題では、11.6ポイント高い。</p> <p>○ドットプロットから中央値を読み取る問題は、市の平均より17.9ポイント高く、ヒストグラムを読み取る問題も、4.5ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴と使い方を理解させ、様々な問題に取り組みさせることで、表やグラフで表されたデータを多面的に分析し、活用する力の伸長を図る。 データを収集したり分析することについて、身近で関心の高い題材を工夫し、目的をもって取り組ませる。

宇都宮市立錦小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	82.8	69.9	67.8
	生命・地球	84.1	75.1	73.7
観点別	知識・技能	88.9	77.8	78.4
	思考・判断・表現	80.2	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率82.8%で、市の平均を12.9ポイント上回っている。</p> <p>○「水溶液の性質」の炭酸水から出る泡が二酸化炭素であることを理解する問題では、正答率が100%で市の平均を20.7ポイント上回っていた。</p> <p>●電流の強さと電磁石の働きを調べるには、どの実験を比較すればよいか指摘する問題では、正答率が56.8%と低かった。</p>	<p>・実験結果から考察を導き出す過程において、まず個別に考えをもたせ、その後ペアやグループによる話し合いを行い、全体での共通理解を図ることで、知識を定着させる。</p> <p>・実験を行う際は、「変える条件」と「変えない条件」を明確にすることや、何を調べるための実験なのか意識付けをした上で実験に取り組ませるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は84.1%で、市の平均を9ポイント上回っている。</p> <p>○実験から取り込まれた活力剤が植物の根・くき・葉に運ばれていることを分析する問題では、正答率が100%で市の平均を14ポイント上回った。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」で、実験の結果から部屋の換気の頻度を分析する問題では、正答率が48.6%と低かった。</p>	<p>・葉が日光にあたるとでんぷんができる実験、観察などの理解しにくい内容に関しては、今後もデジタル教材などを活用し、児童の理解を深められるようにする。</p> <p>・自主的に調べる時間を十分に確保し、調べた結果について図や表などを利用してまとめたり、考察を記入したりする活動を積極的に取り入れ、理解の定着を図る。</p>

宇都宮市立錦小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」を習慣化する。指導の際に誤字訂正をして、正しい表記を確認できるようにする。	6年生は、国語の「書くこと」に関して、市の平均正答率よりも約10ポイント高い結果であった。「予想される反論とそれに対する意見を書くこと」については、市の平均正答率よりも上回っているが、定着に課題が見られた。
基礎基本の確実な定着	体験的に活動を行ったり、具体物を活用したりして、思考力の育成を目指す。また、漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったり、AIDリルを活用したりすることで、基礎基本の確実な定着を図る。	漢字を書くことにおいて、基礎基本の定着に個人差があり、課題が見られた。それぞれの教科の正答率は、市の平均と同等か上回る結果となっている。
長い文章を正しく読み取る力の育成	キーワードに印をつけたり様々な文章に触れる機会を作ったりして、文章への抵抗感を軽減し、書かれていることや問われていることを正しく理解することができるようにする。	国語の「読むこと」において、平均正答率は86.5%で、市の平均より約12ポイント高かった。説明文の内容を読み取ることについて、平均正答率が市の平均よりも約17ポイント高かった。物語の内容を読み取ることについても、すべての設問において市の平均正答率を上回っており、長い文章を読み取る力が身に付いてきているといえる。他教科の問題文の読み取りについては、書かれている内容を正しく捉えて解答している児童が多かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・長い文章を正しく読み取ることに関しては、正答率が上がってきているが個人差がある。今後もキーワードに印をつけたり、様々な文章に触れる機会を作ったりして文章への抵抗感を軽減し、書かれていることや問われていることを正しく理解できるようにしていく。
- ・次年度も、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に向け、思考力・判断力・表現力育成のため、書く活動の習慣化や言語活動の充実を目指す。また、ICTを効果的に活用し、学習内容の定着を図っていく。
- ・宿題に関しては、肯定的な回答が9割を超える学年が多く、きちんと取り組もうとする姿勢が感じられる。しかし「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について、市の肯定割合を下回る学年があった。宿題だけでなく、家庭学習にも積極的に取り組むことができるよう、家庭との連携を図りながら、自主学習に取り組む指導をさらに充実させていきたい。